感染症情報　10月24日～30日

府下小児科200医療機関（堺市19）から

①感染性胃腸炎	1011例	（堺市　35例）
②RSウイルス感染症	434例	（堺市　41例）
③おたふくかぜ	365例	（堺市　31例）
④溶連菌感染症	318例	（堺市　17例）
⑤手足口病	109例	（堺市　3例）

が報告された。

感染症報告数は前週より7．4％減の2,524件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、おたふくかぜ、溶連菌感染症、手足口病の順であった。

1位の感染性胃腸炎は府下で前週比18％増、堺市では17％減であった。当科周囲では増加しつつある。2位のRSウイルス感染症は府下で前週比25％減、堺市で15％減であった。おたふくかぜは府下では前週比29％減で、堺市では11％増であった。4位の溶連菌感染症は府下・堺市とも横ばいであった。

堺市内の中学校で11月1日インフルエンザによる学級閉鎖があった。インフルエンザは前週府下で50例報告され、堺市は9例であった。今年は流行が早そうである。マイコプラズマ肺炎の報告数は府下では前週51例から今週44例の14％減で、堺市では前週15例であったのが、5例となっている。当科周囲の流行は収まりつつあるように思えるが、潜伏期間が2～3週間あるので、まだどうなるかわからない。流行性角結膜炎（はやり目）は府下で前週57例から今回30例に減少した。

麻疹や風疹の報告はなかった。